International Institute of Multi-Cultural Studies
特定非営利活動法人
国際比較文化研究所
■ Newsletter ■
Vol. 14　No5　　2013 年　11 月

～多文化交流特集号～

2013 年夏の多文化交流

太田敬雄

この夏、8 月から 9 月にかけて 3 本の「多文化交流」プログラムが実施されました。今号のニューズレターではそれらのプログラムについて、色々な立場の方々から原稿をいただいて「多文化交流」の特集号を組みました。

国内外で実施されてきた「多文化交流」ですが、この夏には新たに静岡での「留学生と日本人の多文化交流 in しずおか 2013」が加わりました。新たに加わった静岡でのプログラムも含めて、「多文化交流」に共通する一番の特徴は、それが日本語を使用言語として持たれる国際的交流プログラムであることです。

日本語で交流する事には二つの訳があります。先ず第一に、世界中に 300 万人以上居ると言われる日本語学習者があり、その多くの人たちが実際に日本人と日本語で交流することを願っています。その人たちと日本語で交流し、友達となってプログラム終了後もつながっていくことを目指しています。それが彼らの日本語と日本文化習得に大きなプラスとなります。

第二の目的は、日本語を母語とする人たちの成長です。他文化・他言語の人たちとの交流を持とうとしない多くの人たちにも新しい世界を知ってもらう事です。私たちは子供の頃から他者の世界に触れることで成長してきました。これからの人々には多文化社会に触れることで、大きく成長してもらいたいという願いを少しでも実現させたいものです。

次に、日本以外の文化を知らない日本人が「多文化交流」を通して知らなかった世界に触れ、視野を広げ、やがて世界を舞台として活動を始めることも願っています。とは言え、多文化交流を経験した人たちがすべて世界に出ていくことを願っているわけでも、また国際的な仕事をすることを願っているわけでもありません。日本の中で、日本の人たちとの交流のみで生涯過ごす人でも、他の文化に好意を持って生きて貰いたい。あらゆる人々、あらゆる民族、あらゆる社会の人々が、他者に好意を持ち、他者を信頼して生きることの出来る平和な社会。そのような社会がいつか出来ることを願ってやみません。

日本語で交流する事とは直接関係は有りませんが、人と人が楽しく、心の底から交流を繰り返すことで、言語も文化も民族も宗教もそれぞれの生き方や価値観も超えて、世界の人々と手を取り合い友情を深めてゆくことが出来るようになります。そうして平和な地球社会を築くことが「多文化交流」の切なる願いです。

過去から　上　2007 年の多文化交流 in マラン
下　2008 年の多文化交流 in マラン
もうみんな社会で活躍していることでしょう。でも、この時の思い出はみんなの心に焼き付いていると思います。

多文化交流　目　次

1、多文化交流 in 釜山
　参加者：今井望　……　2
　　櫻井えり佳　……　3
　　尾崎慎　……　3
2、留学生との多文化交流 in ぐんま
　スタッフ代表：脇　優美……　4
　スタッフ代表：増井奈津乃…　5
　参加者：星野絢子……　6
　　ハルトノ・スニョト　7
　まなぱるサマーキャンプ：松原雄斗　7-11
3、多文化交流 in しずおか
　スタッフ代表：杉本有規　…　11
　これからの IIMS：太田敬雄　……　11
　しずおか活動記録　……　12
　参加者：内藤愛海　……　12
4、ぐんまとしずおか：清水理沙　13
5、インドネシアと日本：Candy…　14
6、2014 年初めの多文化交流……14
7、写真で見る多文化交流 in マラン…　15

多文化交流 in 釜山・ソウル 2013

By

今井望・櫻井えり佳・尾崎慎

群馬県立女子大学 4 年　今井望

今井 望 さん

釜山外大の皆さんと群馬で交流し、再会を誓った日から「何があっても絶対に参加する!」と心に決めていた多文化釜山・ソウル。友人との再会や新しい仲間に出会えることを本当に本当に楽しみにしていました。当初は参加者がなかなか集まらずプログラムの実行さえ危ぶまれましたが、無事に参加することができとても嬉しく思っています。

釜山でもソウルでも、初めて現地の学生の皆さんと会った際は非常に緊張しました。ですが、待ち焦がれていた出会いだっただけに本当に嬉しかったのを今でも覚えています。嬉しさのあまりにきっと私の顔は終始笑顔だったことでしょう。

学生達とはカラオケをしたり様々な観光地を巡ったり、現地の大学生が休日にする様なことを一緒にさせてもらったりなどして交流を深めました。釜山では二泊のホームステイもさせていただき、韓国の家庭も体験することができました。現地の学生達とも様々なことを話すことができました。大学生の生活や私達の歳の世代の価値観や文化なども知ることができました。文化を肌で体験し、日本では知ることのできない多くの事を学べた貴重な経験できた。本当に素晴らしい時間を一緒に過ごすことができ大変嬉しく思っています。

今回参加して改めて気付いたことは、多文化交流の素晴らしさでした。国籍や文化の違いを越えて一人の人間として深く交流できる場が多文化にはあります。政治の軋轢や過去の嫌な歴史などもまるで関係なくなってしまうのです。今回の交流もまさしくそれでした。多文化ならではのアットホームさや学生の想い、太田先生のかける魔法などのおかげでしょうか。余計な壁は全て取り払って、私は彼らと本物の友情を築くことができました。とても印象深く残っているのは、釜山外大のイム先生が、韓国と日本は「近くて遠い国」と言われているけれど交流を通して「近くて近い国」にしてほしい、とおっしゃっていたことです。今回の多文化で、私にとって韓国は信頼できる仲間や友人がいる本当に「近くて近い国」になりました。多文化釜山・ソウルに参加したからこそ、そう思えるのだと感じています。

また今回の多文化交流は参加者として参加する初めての多文化交流でした。今までは多文化ぐんまのスタッフ経験のみだったため、今回の様な参加者としての多文化交流は新しい発見が多くありました。今後の交流に是非活かして、さらに良いプログラムへと繋げていきたいと思います。

「これが終わりではなく始まり」と太田先生がいつも多文化の終わりにおっしゃっています。本当にその通りだと思います。今回の交流を今後もいつまでも続けていきたい、できるなら子どもや孫の世代まで交流が続いたら本当に嬉しい、と思っています。私達の交流が広がりもっと多くの日韓交流に繋がって、近い将来には互いの国にとって「近くて近い国」になれるように、少しでも私なりに貢献できればと思っています。

お世話になった釜山外大の「のびのび」の皆さん、檀国大の皆さんソウルの檀國大の皆さんに心から感謝しています。掛け替えのない時間を本当にありがとうございました。今度は群馬で、また会いましょう!

〈ソウルの友と〉

この日は暑い中を外出！少人数でも楽しくにぎやかに。人数が少ない事もまたメリットでもあることを知らされた旅でした。　釜山にて

群馬県立女子大学４年　櫻井えり佳

櫻井えり佳さん

私は、大学に貼ってあったポスターを見て、今回の多文化交流 in 釜山を知りました。そのため、私にとって初めての多文化交流でした。誰が参加して、どのような内容かも分からなかったので、初めは緊張していました。しかし、出発する前日に、太田先生や参加するメンバーとお話することができ、多文化交流について詳しく知ることができたため、緊張が解けました。そして、釜山へ行って学生と会えることが楽しみになりました。

釜山に到着すると、現地の学生が空港まで迎えに来てくれました。私達の名前も完璧に覚えてくれていました。そして、釜山外大での歓迎会では、弦楽器を使って、日本の曲「ふるさと」を演奏してくれたのです。この日のために一カ月間も練習してくれたそうです。その後も、皆で韓国料理を食べたり、カラオケに行ったり、様々な観光地に連れて行ってくれました。

今回、多文化交流で一番印象的だったのは、現地の学生の、私達を歓迎してくれた気持ちや、おもてなしの心や、優しさでした。また、どんな事にも勉強熱心で、自分の意思で生きているということでした。釜山外大の学生と触れ合うことで、自分にはない考え方や価値観を直接感じることができました。その考え方に気がつくことで、これからの毎日の過ごし方が変わってくるだろうと思いました。

釜山で五日間を過ごした後、ソウルに移動し、現地の学生との交流もありました。ソウルの学生たちと、賑やかなソウルの街並みを歩いたことも、とても良い経験でした。私は、小さな美術館にも連れて行ってもらいました。そこでは、子供達が作った作品や、趣味で作ったタペストリーなどが展示されていました。現地の人々の生活の一部に触れることができて、とても感動しました。

釜山・ソウルと二つもの地域と学生の皆さんと交流したことは、私にとって本当に貴重な経験でした。これからも、この経験を活かし、また交流を深めて、広げていきたいと思います。

日本大学２年　尾崎慎

尾崎 慎 くん

私には、どこか日本の外に出てみたいという漠然とした思いがありました。そんな時に多文化交流の話を聞きました。そこでは、話す言葉は日本語となっていました。日本語以外話すことのできない自分にとって、これ以上参加しやすい環境はないと思い、今回参加してみることにしました。

韓国に着いてからは、みんなと一緒に焼き肉を食べたり、韓国の伝統的な遊びをしたり、ビビンバづくりをしたりと他にもたくさんの思い出を作ることができました。何より、日本のことや韓国のことについて何気なく話すことができたことは、とてもいい経験になったと思います。音楽や映画、食べ物や文化の違いのことなどなど。実際に話してみて多くのことを知ることが出来ました。

中でも目上の人を敬うことに関しては文化の違いを感じました。握手をしたり、グラスで乾杯をするときなど、手を使う時には、必ず逆の手を添えること。手を添えることで敬意を表しているのだと教えてもらいました。

それらを肌で感じることができたのは、自分自身や日本について考える良い機会になったと思います。何よりみんなと友達になる事ができて本当に良かったです。

今回多文化交流に参加できてよかったと思います。今回お世話になった皆さん本当にありがとうございました。

左　お別れの時

上　何処でも、ひたすら集まっては写真タイム

右　釜山の学生が歓迎の挨拶。

多文化交流 in マラン 2013

3 月に実施されたために今回の「特集号」には載らないが、大切な交流の一つ。写真はこの春のプログラムの中で、訪問した高校の一つ、国立 MAN3 高校の生徒たちとの一こま。

現在、この高校との協定に向けて準備がなされており、春には研究所から教育実習生（日本語）を派遣することになった。

留学生との多文化流 in ぐんま 2013

群馬県立女子大学 2 年
脇　優美（わき・まさみ）

私が多文化交流に出会ったのは、大学 1 年生の時でした。先輩からの誘いで去年 2012 年に初めて企画運営のスタッフを務めて以来、多文化交流にどっぷりとはまってしまいました。夏の多文化交流からはじまり、釜山外大生との多文化交流、多文化交流 in マランへの参加、そして今回の多文化交流が 4 度目の参加になりました。

そして、この記念すべき 4 度目の多文化交流において、企画運営スタッフの代表を同じ 2 年で同じ大学の増井と共に 2 人で務めさせて頂きました。今回のスタッフは 8 名。5 月から動き始め多文化当日までの約 3 か月間、スタッフみんなには本当に助けてもらってばかりでした。このメンバーであったからこそ、今回の多文化交流を最高のかたちで終えることができました。また、今回は去年と違い周りを見る余裕が自分の中ででき、参加者がとても楽しそうに交流している場面を多く見ることができました。

とても楽しそうな顔をみて、企画してよかったという強い思いと、また次回も企画したいという思いを強く感じました。この思いが、多文化交流から離れられない理由なのかもしれません。今回の反省点を次回に生かし、今回とはまた違った素敵な多文化交流を作りあげたいです。

今、私を含め多くの人が英語を勉強しています。英語が世界共通語として多くの国で使われているためです。そんな中、日本語を選んで日本に勉強に来ている留学生との交流は、自分の中でとても貴重でとても大きなものとなっています。なぜなら、この交流を通じて、日本のことや群馬のことを全く知らない自分に気付け、もっと知りたいという興味を強くもつように、自分の中で変化があったからです。”交流会”と聞くと、誰しもが英語で交流するものだと思うだろうが、この多文化交流のように”日本語”で交流する交流会があるということを、多くの人に知ってほしいと思っています。

異なった国の留学生たちが日本語で交流しているのを見てとても嬉しい気持ちになれる多文化交流。参加者もスタッフも同じくらい楽しめるのも多文化。たった 4 日間の交流でとても強い繋がりを作ることができるのも多文化交流。そこからずっと繋がり続けていくのも多文化交流。そんな多文化交流が私は大好きです。多文化交流に出会い、多文化交流を通じて多くの大切な仲間に出会い、太田先生に出会い、私はとても嬉しいです。私と同じ思いを多くの人にしてもらえるよう、これからも多文化交流に関わり続けていきたいです。

留学生との多文化交流ｉぐんま　2013 夏
群馬県立女子大学２年　増井奈津乃

増井奈津乃さん

初めは長いと思っていた３泊４日は、本当にあっという間に過ぎてしまいました。去年から関わらせていただいているこの多文化交流の良いところは、年齢や性別を問わず、すぐに家族のように仲良くなれる点にあると思います。そして今回の多文化交流でも、その良さは十分に発揮され、また一段と多文化の輪が広がったと感じています。

まなぱるキッズとのコラボ企画では、お互いに普段接する機会のない学生と小学生が交流することができ、みんなにとって新鮮で、とにかく楽しい思い出となったと思います。

まなぱるキッズとの上毛かるた　・　うちわ作り　・　キッズと大学生が一つの円！

準備をするうえで一番苦労したといっても過言ではない、ホームステイ。この企画は、留学生にとってはもちろん、日本人参加者にとっても貴重な体験であったと思います。ホームステイから帰ってきた参加者のみんなから、とても良かったという感想を多く聞くことができました。今回、スタッフはホームステイをすることができなかったので、機会があれば私も日本人のお家にホームステイしてみたいです。また、手作りの夏祭りは、ホストファミリーのみなさんもお招きして、とてもにぎやかなお祭りになりました。衣装体験の企画やかき氷、射的、型ぬき菓子と、参加者だけでなくホストファミリーのみなさんも一緒になって参加してくださり、全員が楽しめたのではないかと思います。

親しくなる秘訣？共に食事をする。ここにも留学生が居るんですよ！どの人でしょう？

今回は、さまざまな時間の制約や、２日目にホームステイのプログラムを盛り込むということになり、企画をする段階で、成功させることができるのか、参加者のみんなに満足してもらえるかなどの不安もありました。

多文化の夏祭り風ファッションショー

手作り夏祭り新井さんは食事の暇もないかき氷つくり：大盛況でした。

しかし、最終日のスライドショーでこの４日間の写真を見たとき、みんな本当に楽しそうな笑顔で写っているのを見て、がんばってよかったと心から感じました。この企画が、参加者のみんなにとって忘れられない思い出になっていることを願っています。またこれからは、さらに多文化交流の輪を広げ、その輪がずっと続けていきたいと思います。

留学生との多文化交流に参加して

群馬大学　星野絢子

星野絢子さん

私がこの留学生との多文化交流の企画を見つけたのは学校のポスターがきっかけでした。もともと留学生との交流に興味があったことからすぐに参加を決意しました。また、日本人の家にホームステイをするということにも惹かれました。

当日、安中駅まで行く道のりはどきどきでした。どんな出会いがあるのか、ステイ先の家族はどんな人たちなのか少し緊張していたのを覚えています。初日のイベントはまなぱると呼ばれる子供たちとの交流とバーベキューでした。屋外を走り回って遊んだのは久しぶりだったのでとても楽しかったです。また、まなぱるたちの容赦ない水風船攻撃も良い思い出です(笑)バーベキューは、火おこしにとても苦労しましたが最終的においしく食べることができたので良かったです。

２日目はうちわづくりと、うどんづくりをしました。とても暑い中作ったうどんのおいしさは格別でした。夕方、ホームステイ先の方に迎えに来てもらい家に向かいました。私はマレーシアからきた留学生と一緒にホームステイをしました。彼女はとても勉強熱心で、たくさんのことを教えてもらいました。

夕方、地域のお祭りに連れて行ってもらいました。ほかの参加者もお祭りにいて、そこで、焼きまんじゅうや流しそうめんスイカ割りなどなど楽しい思い出を作ることが出来ました。作ることが出来ました。ステイ先の家族ともたくさんお話をしました。私が今まで海外で経験したホームステイは英語でのコミュニケーションに戸惑うことが多かったので、ステイ先の家族と日本語で話しているのは少し不思議な気分でした。

地域でのお祭りにて
ホストマザー（右端）も共に

３日目はステイ先の方に榛名神社に連れて行ってもらいました。また、牧場でアイスクリームを、ごちそうになったりだるまの顔いれを経験させてもらったり、日本に住んでいるのに自分の知らないことは沢山あるのだなと身にしみて感じました。お世話になった山村さん、本当にありがとうございました。夜にはスタッフの方達が企画してくれた夏祭りがありました。外国の料理、日本で定番の焼きそばやカレー、かき氷などとてもおいしかったです。また型抜きや射的も用意されていて、ホストマザーと本気で楽しんでしまいました(笑)！たった一晩お世話になっただけなのに、お別れするのがとても辛かったです。

最終日、みんなでスイカ割りをしたあとスタッフの方達が作ってくれた写真のスライドショーをみました。たくさんの写真を見て、本当に４日間に起こったことなのか信じられないくらい充実していたなと思いました。安中駅でスタッフの方が電車が、見えなくなるまで見送ってくれたときは思わずうるっとしてしまいました。

私は今回が初めてでしたが、来年や再来年、機会があればぜひまた参加したいです。

企画してくれたスタッフの方々、本当にありがとうございました！

安中駅で電車を待つ…お別れです
筆者は右から２番目

多文化の先輩も、留学生も
スタッフもカメラ見据え

ホスト・マザーズも
負けずにアオザイで

「皆さん　決まってますね～」

2013年8月9日ー12日多文化交流in群馬
ハルトノ・スニョト（インドネシア）

ハルトノ・スニョト君

今年の夏休み初めて多文化交流のイベントに参加した。今まで色々な国際交流イベントに何回も参加したことがあるが、今回はやはり違う。初心者ではない私とはいえ、初めて人と会う時、いつも大変な緊張感がある。しかし、この多文化交流は「私が外国人」ということがありながら、自然に私を受け入れ、ただの普通の「友」と温かくウェルカムされた。もちろん今までの国際交流が今と比べてよくないではなく、今回の多文化交流は自分の味を持ち、とても速いスピードで私や他の参加者を受け入れることができると感じた。

外国人とのコミュニケーションする経験があると言いつつ、今回のイベントについて、参加する自信がなかった。その理由はもちろん自分は外国人ということもあるが、年齢的にもかなり離れているとなんとなく想像した。それだけではなく、今回のイベントにホームステイすることもあると聞いて、恐れた。なぜなら、私今までホームステイしたことがなかったからである。もしホストファミリに失礼なことをしてしまったら、スタッフの皆さんにとんでもない迷惑になるではないかと不安を感じた。正直に参加することを中止する考えもあった。その時、色々なホームステイした経験がある人たちと相談した結果、心の準備ができた。そして一人の友達が参加することを聞き、誰か友達がいれば大丈夫だと思って参加することにした。

初めて安中に行ったので、あまり想像しにくかったが、泊まる場所は思った以上居心地がよかった。緊張しながら、スケジュールを一つ一つ参加し、それも驚いたことに、何の異常もなく、スタッフの皆が普通に私と話したり、一緒に楽しんだりして、本当に「アットホーム」だった。正直にこんな早さで外国人に受け入れてもらうことが初めてだった。ホームステイした時も同じで、ホストファミリの方も私のことを「外国人」より「海外からの友」という扱いをされ、温かい雰囲気だった。このイベントの中で、もちろん自分が失敗し、他の参加者に迷惑してしまったこともあるが、このイベントはすべて楽しかった。色々な素晴らしい方と出会えて、新しい友達もできて、今考えたら、決まった参加費よりもっと払うべきだと感じた。

最後に、「多文化交流in群馬」に参加して、本当によかったと思う。素敵な思い出が多すぎて、言葉で表せないぐらい感動した。これから自分も日本に残るつもりで就活に頑張りたいと思う。そしていつかまた多文化のイベントに参加したいと思う。

≪ハルトノ君は、一か月後の静岡にも参加！≫

まなぱるサマーキャンプ2013
『まなぱるサマーキャンプ』×『多文化交流inぐんま』
まなぱる　松原雄斗

子どもたちの動きを見守るまつんぼ

今回もまなぱる情報はブログからです。プリント用に多少編集しています。

今回のサマーキャンプブログ、オカマツコ改め まつんぼがお送りさせて頂きます！初ブログなので大目に見て下さい。

まなぱる夏の恒例イベントとなったサマーキャンプ。今年は4年生参加してくれました！申し込み先着順となったキャンプ、惜しくも間に合わなかったキッズがいるほどの大人気イベントです☆

今年のキャンプはどんな出会いと出来事があったのか！以下、報告です。

・・・・・・・・・・・・・・・・

15:00 **学習の森：まなぱるキッズ・多文化参加者 全員集合！**それから一人ひとりが自己紹介。

まだみんな緊張してるかな？
自分の順番が来るまでドキドキです（*^_^*）

16:00 さぁ、みんなお待ちかねの**釣りマス大作戦！**しかし･･･！当日の猛暑（学習の森は気温37℃）により魚たちを放流するはずの池の水温が高すぎるハプニング。学習の森の方と、釣り担当スタッフがギリギリまで池の水を循環させるなど対応しましたが、水温が下がらず、非常

に残念ではありましたが釣りマス大作戦は中止となり(T_T)そこで群馬県民なら誰でも１度はしたことがある上毛カルタ！

　みんながカルタを楽しんでる時間で、食事ボランティアの方々と釣り番長が魚をさばいてくれました。ありがとうございます☆
ちなみに釣りで使うはずだった釣竿は後日、多文化交流でのすいかわりで武器として使われましたw
この釣竿も多文化交流のスタッフが竹取から初めて、一生懸命作ってくれました！

釣竿でスイカ割り？やっぱり無理でした！　この時は何種類もの「道具」が用意されていました。

と言うわけで気持ちを入れ替え、キッズの得意な上毛カルタ大会！グループ対抗戦です！！
　さすがは多文化スタッフ、緊急事態の準備も余念がありません。

　キッズがお兄さんお姉さん達に丁寧に説明してあげたり…留学生も県外学生も多、初めて見る上毛カルタにビックリ！　「つるまうかたちの～」

「はいっ！！」
キッズを含めた参加者たち、カルタを２回戦もすると打ち解けてきます!(^^)!

ずっと部屋でもつまらない！せっかく外には芝生の広場があるんだし、外で遊ぼう！！

16:30　**外遊び！**
ここでもキッズは本領発揮、持参した水風船＆水鉄砲ではしゃぎまくりです。

今年のメインターゲットはこの男！↘

数分経っただけで全身びしょ濡れ！汗だか水だかわかりません

　他にもボールを使って遊んだ子！
お兄さんお姉さんと一緒に写真を撮った子！

た～くさん遊びました。
17:15　**１日目のメインイベントBBQ**！キッズも一緒に準備を手伝います！

　食器を運び、食材を準備

魚に串を刺し
それぞれが責任を持って美味しい楽しいBBQにしよう！火がついて、鉄板が温まり、肉が焼けて…いただきます！

肉～ やっぱり炭火焼き美味い！
お魚さ～ん 串焼きにしてかぶりつくなんてあまりない体験！焼き加減も抜群！
野菜に焼きそば！お兄さんお姉さんが焼いてくれるけど、キッズもちゃんとお手伝いしてました！中には持参したポテチを焼いていたキッズもいました

美味しかったよね！BBQ最高だったよね！そんな感謝の気持ちを込めて、まなぱるオニク隊長の掛け声で「肉最高～！！」「ごちそうさまでした！！」

20:15　**シャワー＆フリータイム**

シャワーを6分間使えるお金を貰ったキッズたち、みんな3分間で終わらせ余ったお金でジュースを買っていました！フリータイムではお話したり、トランプをしたり、思い思いの時間を過ごしていました。

全員がシャワーを浴びたあとで、翌日の説明を聞いて、布団をしいて…明日に備えておやすみなさい(-_-)zzz
遊び過ぎて皆即爆睡！

就寝前恒例「太田先生の怖い話」は来年に持ち越しです（泣）

さていよいよ二日目です☆

5:30 起床　「眠い～」そんな声と共にキッズたち起床です。夜はみんなぐっすり寝ていましたよ(^_^)　面白い寝相や、カワイイ寝言、聞き取れない寝言wなど…ここでもいつもとは違う一面が見れました！

6:00 ラジオ体操　今年もラジオ隊長が先頭に立って体操をしてくれました。留学生はラジオ体操なんて見るの初めて！日本人学生も10年ぶり！なんて人もいました。

さぁ、キッズ達の出番です！！
6年生が全員ステージに立ち見本を見せてくれました

7:00 **朝ごはん**

「お腹すいた～」「腹減ったー」と言う声がちらほら。みんなお待ちかね朝ごはん！

キッズ・多文化参加者・スタッフ、総勢60名分のオニギリを朝早くから食事ボランティアの方々が作ってくれました！ありがとうございます＾＾みんなで感謝の気持ちを込めて「いただきます！！！」

8:30 **うちわ作り**

朝ごはん後、東横野公民館へ移動し２日目メインイベントうちわ作りです。

日本の文化をみんなで、誰かに教わるのではなく一人ひとりが自分で作れるようにと学生スタッフたちが考えてくれました＾＾

☆色鉛筆やペンを使って絵を描いたり

☆折り紙を切って貼り付けてみたり、持参したシールを使ってデコレーションしたり

一人ひとりが自分で作ったうちわを持って記念撮影(＾＾)v

10:30 **まなぱるお別れ会**

楽しかったキャンプ…時間が経つのは早いもので、お別れの時間です(ToT)

まず多文化交流参加者に感想を言ってもらい。キッズを代表して６年生から男女２名ずつ、感想を言ってもらいました。

内容も自分たちで相談して考えていました。みんなちょっぴり緊張しちゃったみたいだけど『ありがとう』の気持ちはお兄さん・お姉さんたちにちゃんと伝わっていたよ☆

まなぱるを代表して太田先生の挨拶を終え、多文化交流参加者のお兄さん･お姉さんと、まなぱる**キッズが一人ひとり熱い握手を交わしました。**

相手の目を見て『ありがとう』を伝える。簡単そうだけど実際にやってみると意外と恥ずかしくて出来なかったりしますよね。でも、全員が『ありがとう』と言えていたし、お兄さん・お姉さんたちもみんなと握手できた事をとても喜んでいました＾＾

本当にこれで最後です(T_T)まなぱるキッズ・多文化交流参加者・スタッフ、全員で

円陣！！

『ありがとう』と『楽しかった』の気持ちを込めて！気合を入れて！！せーーーーのっ！！

「押忍！！！」素晴らしい円陣でした！感動のあまり涙する人もいましたw

２日間という短い時間でしたが、思いっきり遊んで・思いっきり食べて・思いっきり笑った、とっても濃い２日間を過ごしたキッズ達。また一緒に遊べる日を楽しみにしています(＾＾)

ありがとう☆

まなぱるサマーキャンプは２日間の日程でしたが、多文化交流ｉｎぐんまは全４日間の日程となっており、１泊２日のホームステイをして過ごす時間もありました。

まなぱるキッズのお宅でもホストファミリーとして参加していただいた家庭もありました。彼らのことを快く迎え入れていただいた、キッズ・保護者の皆様、ありがとうございました。

後日、ホームステイした参加者と話す機会があったのですが、出てくる言葉は「楽しかった」や「また一緒に遊びたい」「ありがとう」といった言葉ばかりです。それぞれの家庭で過ごした時のことをとても楽しそうに話してくれて、彼らとしても貴重な時間を過ごす事ができたようです（＾＾）

また今回、企画の段階から多文化スタッフとの打ち合わせをするなかで、キッズ・多文化みんなのことを考えてくれ『どうしたらみんなが楽しい時間を送れるか』を常に頭に置いて話し合っていました。企画力とポジティブシンキング素晴らしかったです。ありがとうございました。

とても楽しい、最高の夏でした！参加者全員が楽しもうという気持ちがあったから出来上がった素晴らしい時間だったと思います。

まなぱるサマーキャンプ２０１３×多文化交流ｉｎぐんま２０１３夏のコラボ、今年も最高でした！

まなぱるキッズ・保護者の方々・まなぱるスタッフ、多文化交流参加者・スタッフ・食事ボランティアの皆様、本当にありがとうございました！！　　reported by 松原雄斗

これからの IIMS

IIMS 所長　太田敬雄

国際比較文化研究所を立ち上げてほぼ 13 年。2000 年に立ち上げたメンバーはそれだけ歳を取ってきた。IIMS と同じ頃に発足した多くの NPO は今、世代交代に苦労している。

幸い、IIMS 全体としては「まなぱる」の発足で太田琢雄と若いスタッフが入り、他所の NPO からは羨まれる状態にある。さらに、多文化交流では、これまでの参加者たちが積極的にプログラムを企画・運営してくれるようになり内容もぐんと充実してきている。

世界平和の夢に向けて、ほんの少しだが前進している実感が何よりも嬉しい。

留学生と日本人の多文化流 In しずおか 2013

By

杉本　有規（すぎもと　ゆうき）

杉本有規君

「留学生と日本人の多文化交流 in しずおか 2013」それは、私を成長させてくれたもの。それは、私とみんなをつなげてくれたもの。それは今年の夏を最高の夏にしてくれたものでした。私は、「留学生と日本人の多文化交流 in しずおか 2013」で様々なことを学びました。強く実感したことは人とのつながりの大切さ、そして感謝です。

多文化交流 in しずおかは５月末から活動を開始しました。最初の会議の参加者は 4 名でしたが、そこから多文化交流 in しずおかが始まりました。

一から何かを始めるのはということはとても大変なことでした。スタッフ集めから始まり、宿泊所の確保、渉外、企画、参加者募集、連絡や会議とやることは盛りだくさんでしたし、スタッフ全員が当然、素人でした。またスタッフ中には多文化交流に初めて携わる人もいます。指導者が常にいるわけではないので、スタッフ会議は始め、多文化交流に参加したことのあるものが中心となり話し合いをしてきました。なかなか思うように企画や広報活動等が進まず悩んだ時期もありました。昨年の多文化交流 in 群馬のスケジュールを参考にしたり、自分たちのいままで多文化交流に参加した経験などを活かして作り上げていきました。これで正しいのだろうか、これで参加者は楽しんでくれるのだろうか、試行錯誤しながら企画していきました。

活動をしていく中で、私は人のつながりの大切さを心から実感しました。当然私ひとりでは実行することはできません。スタッフ一人一人が自分の出来ることを全力でやり、お互い助け合い、また指摘し合うことで楽しい企画をつくれ、それを実行することができました。またそれは参加者の募集の時も感じました。参加者の募集をかけ、最初の募集締切の日を迎えた頃、留学生 10 名の募集に対して集まった留学生は 3 名でした。

これでは開催できない、その時スタッフ全員が不安になりました。そして、皆で募集活動を第１課題にし、facebook や Line などで自分たちのもっている人とのつながりを活かして募集活動していきました。その成果も実り、開催日 2 週間前、日本人参加者 11 名、留学生 13 名と多く参加者が集まりました。準備は様々な困難があり、大変なものでした。当日も同じです。

き緊張や不安から開放されました。2泊3日間、天候にも恵まれ、楽しい多文化交流ができました。そこにはスタッフの働きと参加者達の協力があったからです。この留学生と日本人の多文化交流 in しずおか 2013 を企画、実行するにあたって、ご指導いただきました太田先生と多文化交流 in ぐんまのスタッフの皆様に大変感謝しております。また後援や支援いただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

最後に、多文化交流を新しい場所で開催したいを思っている人に伝えたいことがあります。新しく何かを作り上げることは本当に大変なことです。楽しいことやうれしいこともありますが、不安や悩みもたくさんあります。しかし、多文化交流をここでやりたいという強い思いやその活動に共感してくれる仲間がいれば出来ると思います。そしてとにかく行動することです。うまくいかないことや失敗することはあります。でもそういった経験は行動しないと生まれません。経験は自信になり、成功に繋がります。だから思いがあるなら行動してほしい。もがき続ければきっとなんとかなる。

私は「留学生と日本人の多文化交流 in しずおか 2013」の開催を通じて、多文化交流の活動が全国や世界に広がり、国際比較文化研究所の思いである、「誰もが持ちがちな心のバリアに気づき、それを取り払い、平和な地球社会を作り上げる」を広めていきたいと思っています。これからも多文化交流 in しずおかを宜しくお願い致します。

留学生と日本人の
多文化交流 in しずおか 2013
活動記録

１日目

最初の出会いは由比駅

緊張とワクワクの初対面でした。
今日から始まる多文化交流、よろしくお願いします！

晩ご飯はお好み焼き。みんなで作ったお好み焼き。
上手に焼けたし、すごく美味しかった！
みんな仲良しになったかな？

２日目

ハイキング～
晴れて良かったー！
楽しいハイキングでした。

夜は花火だぜ！！

ハイキングの疲れなんて関係ないぜぇ～
花火はテンション上がるね！

３日目

ステンシル体験！
T―シャツに自分の好きなデザインを描く、それがステンシル。

最後の集合写真（泣）
2泊3日間ありがと――！！

静岡に参加して思うこと
日本大学３年　内藤愛海（ないとうあみ）

内藤愛海さん

私達は「違い」というものに敏感であり、多文化交流をためらってしまう若者は少なくありません。

今回、私は多文化交流 in しずおかに参加して、その「違い」というものをあまり意識することがありませんでした。留学生のみんなとハイキングやバーベキューなど、様々な活動を通して私達は同じ世界に生きている「仲間」であると強く感じたのです。ハイキングの時、疲れている私に手を差し伸べてくれる、おいしいご飯を食べながら一緒に笑いあえる。こうした交流 （p. 12 へ）

中の些細な出来事から、相手のことを知りたいという気持ちをもつ事、相手の気持ちに沿って考える事、そして思いやる事…このような人と人とのコミュニケーションをとるにあたって最も大切な事が国境を越えて「仲間」を作ることを実感させてくれました。私達は日本人、中国人、アメリカ人である前に、同じ「人間」であります。グローバル化が進む現在、日本の今の若者は内向き志向で外にでていこうとしないと言われています。「違い」を気にする前にまず正面から向かい合ってみる事です。きっと知らず知らずのうちに世界が広がっていくことと思います。

このような気づきがたくさんあった今回の多文化交流 in しずおか。素敵な出会いをもたらしてくださった参加者のみんな、スタッフの皆様、太田先生に感謝の気持ちを述べたいと思います。ありがとうございました。

内藤さん（前列右から 2 人目↑）と仲間たち

留学生との多文化交流 in ぐんま・しずおかを終えて

群馬県立女子大学 4 年　清水 理沙

今年は留学生との多文化交流にとって記念すべき年です。静岡県での多文化交流が初開催されました。私は 2011 年の多文化交流 in ぐんまに参加者として関わり、以後は企画・運営スタッフを務めています。8 月の多文化交流 in ぐんまにはスタッフとして、9 月の多文化交流 in しずおかには久々に参加者として関わりました。スタッフと参加者、両方の視点から、今回 2 か所で開催された多文化交流を比較させていただきます。

清水理沙さん

まず、プログラム内容の大きな相違点としては主催研究所の「まなぱる」との共同サマーキャンプやホームステイといったように、多文化参加者だけではなく地域の子どもたちや家族の方々と一緒に作り上げた 4 日間のプログラムであったことです。今回の群馬では 2 年振りにホームステイを取り入れました。留学生においては日本の一般家庭の生活を体験できる貴重な機会です。また日本人学生においても留学生といることで日本の習慣を意識したり、説明できない日本文化に気付くことで自国の文化を見改めるきっかけになると思います。さらに、新しい家族ができることで、人と人との結びつきや絆が深まるのではないでしょうか。実際ホームステイ後、参加者とホストファミリーを交えた手作り夏祭りでは、本当の家族のように接する姿が見受けられました。1 泊という短い時間でしたが、心に響く交流ができたことを嬉しく思います。

一方、静岡では参加者同士の時間が大切にされた非常にアットホームなプログラムであったと感じています。太田所長が毎回おっしゃる「参加者はお客様ではない」というお言葉が自然と守られていました。スタッフが何か準備していると、参加者から「何か手伝うことある？」という声を何度も聞きました。スタッフ経験がある為、いざという時はサポートしようと思っていましたが、その必要はありませんでした。静岡に参加し、改めて多文化交流のスタッフのあり方を考えさせられました。プログラム当日は企画の遂行よりも、多少予定通りにいかなくとも、参加者とスタッフ共に助け合う雰囲気作りが重要だと感じました。

また、今回に限ったことでありますが、群馬に比べ静岡の参加者はこのような文化交流イベントへの参加が初めてという方が多かったです。大学よりも日本語学校に通う留学生参加者が多く、新しい日本語をすぐにメモする姿や覚えた日本語をすぐ嬉しそうに使う姿が見られました。また、日本人が留学生に日本語教えるだけではなく、留学生同士で日本語を助け合う場面も見られたことは、とても新鮮でした。このような姿は多文化交流を通してもっと日本語が上手になりたいという現れだと思います。留学生の熱心な姿を見て、日本人参加者ももっと語学を極めたいという声もたくさん聞きました。互いを高め合える多文化交流であったと思います。

スタッフとして参加者募集をしている際は大学、日本語学校問わず募っています。もちろんどちらの参加者も大歓迎です。しかしながら、やはり日本語学校の学生の方が日常生活において日本人との関わりが薄いことを今回改めて感じることが出来ました。今後の群馬では日本語学校へのアプローチを強めることも検討していきたいです。

経験や施設の環境も異なる 2 つの多文化交流でしたが、スタッフとして、また参加者として関われたことで多文化交流における視野をさらに広げることができました。私が学生スタッフとして多文化交流に携われるのは僅かですが、群馬、静岡ともに次世代のスタッフへこの経験を還元していかなければならないと強く感じています。

4 年生の清水さん・今井さん（p.2 ）：共に卒業までの数ヶ月、まだまだ多文化交流のために一汗も二汗も流す覚悟です

インドネシアと日本の多文化交流比較

同志社大学大学院　キャンディ

Candy さん

こんにちは。同志社大学文化情報学研究科博士前期課程 1 年、インドネシアからきた、キャンディーです。多文化交流のプログラムに関わり始めたのは 2007 年、大学 1 年生のときからでした。そのときは初めての多文化交流 in マランが行われて、私は参加者として参加しましたが、その後の 2009 年、2011 年、2012 年の多文化交流 in マランに実行委員（スタッフ）として参加しました。

今年の 4 月から来日して、8 月に行われた多文化交流 in ぐんまと 9 月に行われた多文化交流 in しずおかに参加しました。他の多文化交流のプログラムはどのようなプログラムになるか気になり、前から参加したかったのです。やはり濃い交流ができて、とても嬉しいです。日本で多文化交流にも参加できて、本当に良かったです。ここで少しインドネシアと日本の多文化交流の比較について説明したいと思います。

まず、インドネシアと日本の多文化交流は何が違うかと聞いたら、1 対 1 のパートナー制度が最も見られると思います。多文化交流 in マランではそれぞれの日本人参加者に日本語専攻のインドネシア人大学生がついています。インドネシア人パートナーは日本人参加者のインドネシア滞在のサポート役をします。しかしこのことも短所があるようです。インドネシア人パートナー向けのアンケートによると、自分のパートナー以外の日本人参加者にも仲良くなりたいという気持ちがあるようです。自由交流（フリータイム）の増加や、パートナー交換や、パートナー制度の削除も考えていました。さて、日本の多文化交流はいかがでしょうか。

日本の場合は、群馬で何回か、静岡では 1 回実施されました。どちらもパートナー制度がなく、スタッフや参加者は自由に交流できます。群馬と静岡の多文化交流に参加したら、一つの大きいことに気づきました。良いプログラムはもちろん大事ですが、より濃い交流ができるように重要なのは、参加者の交流する意志です。ただ「楽しいから参加する」ことだけでなく、本当に人と人の心を繋ごうとしている意志です。そう思っても現在にはなかなかできないようだと思います。なぜかというと、それは携帯電話、特にスマートホーンの時代になったからです。

スマートホーンはたくさん、また遠く離れている友達と同時に繋がることができ、ある面とても便利なツールだと思います。しかし、私たちは「quantity than quality」（質より量）を重視することになるのでしょうか。多文化交流 in 静岡が終わって、皆がまだ Line のグループで連絡をやりとりしているのは、濃い交流ができた証拠です。考えてみたら、使用された施設には電波が非常に悪かったのが交流を深めたかもしれません。多文化交流 in マランも、日本人参加者は Wi-fi のところでないと携帯電話・スマートホーンを使うことができませんので、かなり濃い交流ができたと感じます。携帯電話・スマートホーンをかしこく使わないと、遠くいる友達は近くに、近くにいる人が遠く感じさせることができます。このようなことは悲しいことだと思います。

もう一つ気付いたことはプログラムのことです。交流するためのプログラムは、活動をそんなにたくさん入れなくても良いようです。太田先生がおっしゃったとおりに、集まる場所と時間（フリータイム）さえあれば十分です。私の考えではお菓子・お飲物があったほうがいいですが、携帯電話はできるだけ見ないほうがよい濃い交流ができると思います。

この多文化交流に関わった方々から、「もっと英語・日本語の勉強を頑張ろう」、「留学してみよう」、「日本への留学奨学金をチャレンジしてみよう」、「来年スタッフになろう」などの声を聞き、本当に幸いです。自分もいただくだけでなく、身の周りの人々に還元しなければならないと感じます。

2014 年初めの多文化交流予定

「第 7 回多文化交流 in マラン」3 月 3 日～12 日。国立ブラウィジャヤ大学日本語学科の学生と日本語で交流。参加条件：18 歳以上で、日本語で交流できる人。経費：約 15 万円の予定（航空運賃・マラン滞在費・プログラム経費・成田前泊経費・旅行保険）

「第 1 回多文化交流 in ポートランド」3 月 22 日～29 日（予定）。米国オレゴン州 Portland State University の日本語専攻の学生と日本語で交流 4 日。（ポートランドでは英語使用禁止！）他にシアトル観光。参加条件は上と同じ。経費： 22 万円±2 万円程度の予定

「多文化交流 in ぐんま」プサン外大の学生も来日しての交流を準備中。2 月 14 日～16 日、安中市の学習の森で開催されます。参加費は 5 千円前後の予定です。ブラウィジャヤ大学からの招聘生の参加も検討中です。

さらに、**台湾と日本の親子交流**も、来年の 6 月頃をターゲットに企画が進められています。

多文化経験者たちが、たくさんの汗を流す覚悟でこれらの企画に当たってくれています。皆様も参加者として、スタッフとして、あるいは支援者として、共にこの素晴らしい交流の体験者となってください！

写真で見る「多文化交流 in マラン 2013」
成田出発からインドネシア、マランの初日
プログラムは 2013.3.4.前泊～3.13.成田解散

成田での前泊は初めて顔合わせをする参加者がお互いを知り、気持ちを一つにする絶好の場となった。

何度も多文化を経験してきたマランのスタッフも、初日のオリエンテーションでは緊張気味。一人、コーディネーターのマコ先生（左）のみ余裕の表情！

インドネシアの多文化では、参加者はパートナー制：プログラムはゲーム形式でのパートナー探しから。

スタッフ、日本からの参加者、マランからの参加者がそろって一枚。(カメラマンが一人蚊帳の外ですね～)

ここが日本からの参加者が滞在したゲストハウス。
そして頭上のバナーはスタッフの手作り。

マコ先生とスタッフリーダーのイチューズさん

まなばる・多文化交流プログラム・招聘プログラムをご支援ください

この冬から春にかけては、通年のまなばるの活動のほか、インドネシア（3 月上旬）、アメリカ（3 月下旬）そして群馬（2 月中旬）の三本の多文化交流が計画されています。また、2 月の群馬にはインドネシアから何名かの学生を招聘出来ないものか検討がなされている最中です。

数年前から徐々に学生たちに群馬や静岡のプログラム企画・運営を任せてきました。その結果、多文化交流は大いに発展したと感じさせられています。来年 3 月のインドネシア、アメリカの多文化交流から、海外プログラムの広報・募集を中心とした部分も過去に多文化交流を経験した学生たちに任せることにしました。私が最も苦手としていた、参加者募集がスムーズにいくようになる事を願っています。

会員と賛助会員の違いについて

時々、会員と賛助会員の違いについてご質問を受けます。定款では「正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。」としていますが、この正会員のことを「会員」と呼んでいます。賛助会員との違いは正会員（社員）には年会費（現在２千円）を納めて頂き、総会での議決権を持つことにより、研究所の運営に携わるところに有ります。

賛助会員につきましては、特に会費を定めておらず、ご寄付下さった方と多文化交流などのプログラムにご参加下さった方を賛助会員とさせていただいております。現在、会員は１７０名ほど、賛助会員も同じく１７０名程度いらっしゃいます。

現在「会員」として支援していただいている方で、ご希望が有りましたら会員から賛助会員への移動もその逆も可能です。メールかファックス、或いはハガキにてご連絡ください。なお、同封の振込用紙に「賛助会員への移動を希望」あるいは「入会希望」と記していただければ、そのようにさせていただきます。

会費・寄付（2013.8.16～11.13）《敬称略・順不同》

＜入会＞　井上和彦、菅ヶ谷純一　新たな入会者のお二人です。よろしくお願いします。

＜会費＞菅ヶ谷純弘(14)、菅ヶ谷純一、小林慎樹、長谷川路子、森泉孝行、伊藤優子、長谷川貴尚、井上和彦、小川美幸、宇賀神正美・真実、長谷川昇、青木洋子、太田敬雄、佐俣由香、角田敏太郎、森泉寿義雄、山縣英明、狩野郁子。’13 年度分の会費をすでに頂戴している場合は 14 年度分として頂戴し、（14）と記録させていただきました。今回はこちらのミスで重複して請求してしまったケースでした。一度お返しするべきかも知れませんが、来年度、再度振り込んでいただくと振り込み手数料も二重になりますので、このような対応をさせていただきました。申し訳ありませんでした。

＜寄付＞〇一般寄付　菅ヶ谷純弘、岩井均、長谷川路子、村井田和夫、松香光夫、岩丸愛、長谷川貴尚、望月恵子、斉藤正幸、鈴木喩香子、井上和彦、宇賀神正美・真実、親泊治（x2）、青木洋子、池田章二、植原映子(ご主人供養寄付)、角田敏太郎、鬼頭幸子。これまで、特に記しては居りませんでしたが、(x2) は二度にわたってご寄付いただいた場合（x2）と記させていただきました。ありがとうございます。

〇多文化　菅ヶ谷純弘（静岡）、菅ヶ谷純一（静岡）、菅ヶ谷由美子（静岡）。小林慎樹（静岡）、阿部洋一（静岡）、野田敏郎（静岡）。ありがとうございました。お蔭様で始めての静岡プログラム、大成功の内に終えることが出来ました。年明けには「ぐんま」、「インドネシア」、「アメリカ」と多文化プログラムが続きます。どうか皆様のご支援をお願いします。

〇招聘　菅ヶ谷由美子、伊藤優子、村井田和夫。2 月の「多文化交流 in ぐんま」にあわせて招聘出来るか、どのような形が良いか、現在検討中です。今回無理な場合は次回へ繰越させていただきます。

編集後記：所長は 9 月に入院し、片側顔面痙攣に対する全身麻酔下、微小血管減圧のための手術を受けました。手術後 10 日程で退院しましたが、その後のリハビリに時間を要し、ニューズレターの発行にも予定外の時間を要してしまいました。

お蔭様で、その後順調に回復し、今は通常の活動に戻っております。どうかご心配下さいませんようにお願いします。

Newsletter 発行　特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電話：027-382-5998　FAX：027-382-6393
e-mail：mtharunac@xp.wind.jp
HP：http://www8.wind.ne.jp/mthc
MANAPAL ブログ：http://manapal.gunmablog.net/e80854.html
郵便振替口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所
Facebook: 多文化交流 NPO 法人国際比較文化研究所